

仏について

悟りを開くということについては心配しなくてよろしい。

仏はすでにあなたの心の中におられて、あなたが見つけるのを待っておられるのだが、私たちが自分の内側を観察せずいつも心を散漫にしているので、それで仏を見いだすことができないだけなのじゃよ。過去について考えるのをやめて、未来についてまだ起こっていないことを考えるのをやめて、さまざまな執念の間のすき間にいることができれば、虚空の中に安住している自心の本性をちらりと見ることができるが、それがすなわち仏なんじゃ。もしいつでもこの本性を保ち続けることができれば、それがすなわち悟りなんじゃね。どんなときでも、ただ執着するのをやめれば、輪廻の因はなくなる。どんなときでも、執着をはじめれば、またもや輪廻の因を作り出してしまう。仏は実は遠方におられるのではなくて、いつもちゃんとそこにおられて、あなたの方が気がつくのを待っておられるのじゃ。もし自我への執念を手放さず、世間を捨てることで輪廻から逃げだそうとしても、それでは解脱するわけがない。もし自我への執念を手放すなら、世間の生活を続けていても、解脱を得ることができるんじゃ。

特別に大切なのは、困難で苦痛なことに出くわしたときに、執着してはいけなくて、さまざまな考えを虚空の中に自然に融けて消えさせることじゃ。外から問題がやってきても、心はそれにとられる必要はない。この一点を理解していない人は、小さな問題なのにそれを耐えることができなくて、ひどく深刻にとって、自殺したりするんじゃね。仏は、あなたの自心の外にはおられないのじゃ。

(『噉千語録』, p.86)